

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

な雑草でした。しかし、ライ麦は冬の寒さを乗り越える力(耐寒性)、乾燥した気候にも耐える力(耐乾性)に優れた、ストレスに強い雑草です。そこで、人類はアフガニスタンの高地や北欧などで、小麦が全滅してしまうような寒い気候や乾燥条件でも枯れることが少ないライ麦を小麦栽培の限界地帯で作物として利用するようになりました。ライ麦は雑草出身ということで、現在でもワイルドなたくましい部分と、作物としては洗練されていないもろい部分の両面を持っています。私はこのようなライ麦を作物研究者として愛おしく感じています。

人間にとってすべて都合の良いスーパーマン的な作物は存在しません。ライ麦を例に物事を多面的に見る大切さを紹介させていただきます。

【あらひろこ氏プロフィール】

フィンランドの伝統楽器カンテレの奏者。日本であまりカンテレが知られていなかった1990年代から、国内では数少ないカンテレ奏者として活動。情景を描くやわらかな演奏を持ち味とし、フィンランド、スウェーデン、アイルランドなどの伝統曲や、自作曲、即興を中心に、独特の空気感を持つカンテレの瑞々しい音色を様々な場で届けている。小樽市在住。

【山本睦子氏プロフィール】(本日ステージに飾られたヒンメリの製作者)

ヒンメリアーティスト。グラフィックデザイナー・北海道フィンランド協会常任理事。フィンランドで生活し、北欧のデザインや暮らしを体験。現在は作品制作、展示、ワークショップを通して麦わらで作るフィンランドの伝統装飾品の素晴らしさを伝えるとともに、ペーパーストローを使ったヒンメリやマスキングテープでアレンジしたシリーズ「アイノ」など新感覚のヒンメリも創作し活動を行っている。

【次回の大学礼拝】2018年12月18日(火)10時40分

次回の礼拝はコンサート形式のクリスマス礼拝になります。吹奏楽団・室内楽団・合唱団・聖歌隊などが参加しますが、礼拝に来た皆さんと一緒に歌う機会を多くとってあります。ご期待ください。これからの練習は12月17日(月)18-20時に黒澤記念講堂で、そして直前のリハーサルは12月18日(火)9時から黒澤記念講堂で行われます。飛び入り参加も歓迎しますので、腕(のど?)に覚えのある方はどうぞ。

【前回の大学礼拝】2018年12月4日(火)

学生 154名 教職員ほか 10名 合計 164名

【大学礼拝週報】2018年度第27号(後学期第12号)

2018年12月11日(火)午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 高橋優子(キリスト教学教員)

奏 楽 佐藤理恵(野幌教会会員)

讃美指導 相原晴伴(循環農学類教員)

前 奏 「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」(アーベル作曲)

讃美歌 讃美歌115番(ああベツレヘムよ)

聖 書 マタイによる福音書21章42節

祈 り

さん び

酪農学園大学聖歌隊

奨 励

「小麦畑の雑草だったライ麦に魅せられて」

義平大樹(循環農学類作物学研究室教授)

宮崎早花(循環農学類食物利用学研究室講師)

あらひろこ(カンテレ奏者)

報 告

讃美歌 讃美歌70番(朝日は昇りて)

後 奏

「神のみ子は来たりたもう」(ペッツォールト作曲)

【本日の聖書】マタイによる福音書21章42節

イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。

『家を建てる者の捨てた石、

これが隅の親石となった。

これは、主がなさったことで、

わたしたちの目には不思議に見える。』

【奨励者からのメッセージ】

ヒンメリは、フィンランドをはじめ北欧諸国で、作物の豊穡を願ってクリスマスに家庭や教会で飾られる質素な装飾品です。伝統的なヒンメリはライ麦という特殊な麦のわらでつくられます。ライ麦は中央アジアを起源とする日本では特殊な麦です。もちろんライ麦パンの原料ですが、4500年前頃まで、みなさんが毎日食べている小麦の中に混ざってくる、やっかい